

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
薩摩川内市	樋脇地区	令和2年12月21日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	368.2ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	266.1ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	71.6ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	56.8ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計 (備考)	37.9ha

2 対象地区の課題

(1) 今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積よりも、75歳以上で後継者未定の農業者の耕作面積の方が18.9ha多く、新たな農地の受け手の確保が必要。
(2) 耕作条件の悪い農地の借り手がない。
(3) 有害鳥獣被害が多い。
(4) 兼業農家が増えている。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

樋脇地区の農地利用は中心経営体である認定農業者28経営体や認定新規就農者1経営体、基本構想水準到達者3経営体が担うほか、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することで対応していく。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

農地の集約化を図るため、農地の所有者は原則として、農地を中間管理機構に貸付けていく。
大型機械が入れるような農道整備、基盤整備を図る。
市等の事業を活用し、有害鳥獣被害防止策を講じるとともに、捕獲により個体数を減らす。
魅力ある農業に向け、収益性の高い品目への転換を検討する。